

江田コレクションとは

江田コレクションは、東京都にお住まいだった江田茂さん（1930～2008）が趣味で収集した昆虫標本のコレクションです。東京生まれの江田さんは、兵庫県芦屋市で幼少期を過ごしました。この頃、江田さんは昆虫の魅力にとりつかれました。当時の日本は戦中戦後の混乱期で、外国産の昆虫標本を入手する方法がほとんどありませんでした。そこで、江田青年は、海外の標本商や昆虫学者らと文通し、外国産の昆虫標本を集めたそうです。それから神戸市の灘高校、次いで東京大学法学部を卒業し、1954年に国家公務員（労働省の官僚）になりました。

大人になると趣味の昆虫をやめてしまう人が多いのですが、江田さんは大人になっても昆虫標本のコレクションを続けました。むしろ、ますますコレクション作りに心血をそそぐようになったのです。私の地元の広島では、江田さんが労働部長として広島県に赴任していた頃、珍種ヒメシロチョウを採集するために、遠路をものともせず庄原市の七塚原へしばしば通っていたという話が伝わっています。ちなみに、庄原市のヒメシロチョウ個体群は、その後絶滅したと考えられています。また、江田さんは、アメリカ合衆国日本大使館（ワシントン D.C.）に4年間勤務し、スミソニアン博物館との標本交換により、さらにコレクションを充実させました（そのため、江田コレクションにはアメリカ大陸の昆虫標本が非常に多い）。



写真2 A: アエドンミイロタテハ, B: クラウディアミイロタテハ, C: ファルクドンミイロタテハ



写真1 ホメルスアゲハ

このようにして収集された世界中の昆虫標本 27 万点余りを 1997～2001 年に兵庫県が購入しました。阪神・淡路大震災で打ちひしがれた子どもたちに夢を与えるためでした。江田コレクションは、標本数が膨大ですので、博物館内の展示だけでなく、キャラバン事業（出張展示）などでも頻りに活用されています。活用実績は当館の昆虫標本の中でもっとも高く、これはおそらく日本全体でみてもトップクラスでしょう。

昆虫標本は、標本を食べる害虫や温度湿度などに気をつけて適切に管理すれば、半永久的なものです。ですので、震災から 20 年以上経った今でも江田コレクションは活用されていますし、博物館がある限り今後も活用され続けていくことでしょう。

世界の美しい蝶たち

27 万点余りの江田コレクションのうち、その半数近くが蝶類標本です。これらの蝶類は世界中から集められたもので、東南アジアはもちろんのこと、中央アジア、南北アメリカ、アフリカの標本も多数含まれています。今ではワシントン条約（絶滅のおそれのある野生動植物の種の国際取引に関する条約）で採集や商取引がきびしく禁じられており、入手することが不可能に近い種の標本も含まれます（例えば、ホメルスアゲハ 写真 1）。

その他、トリバネアゲハ類 851 点、キシタアゲハ類 950 点、テングアゲハ類 222 点、シボリアゲハ類 68 点、ミイロタテハ類 518 点（写真 2）、

ウスバシロチョウ類 3,577 点、モルフォチョウ類 2,851 点など、主要なグループだけを見ても個人コレクションとは思えない規模の標本数です。

今年 7 月から開催する予定の「美しき蝶たちとの出会い—江田コレクション展 2018」では、こうした膨大なコレクションの中から選りすぐった 200 種の蝶（写真 3）を展示・解説します。美術品のように美しい蝶、珍奇な姿の蝶、不思議な生態の蝶などが展示されますので、是非、足をお運びください。

山内健生（自然・環境評価研究部）

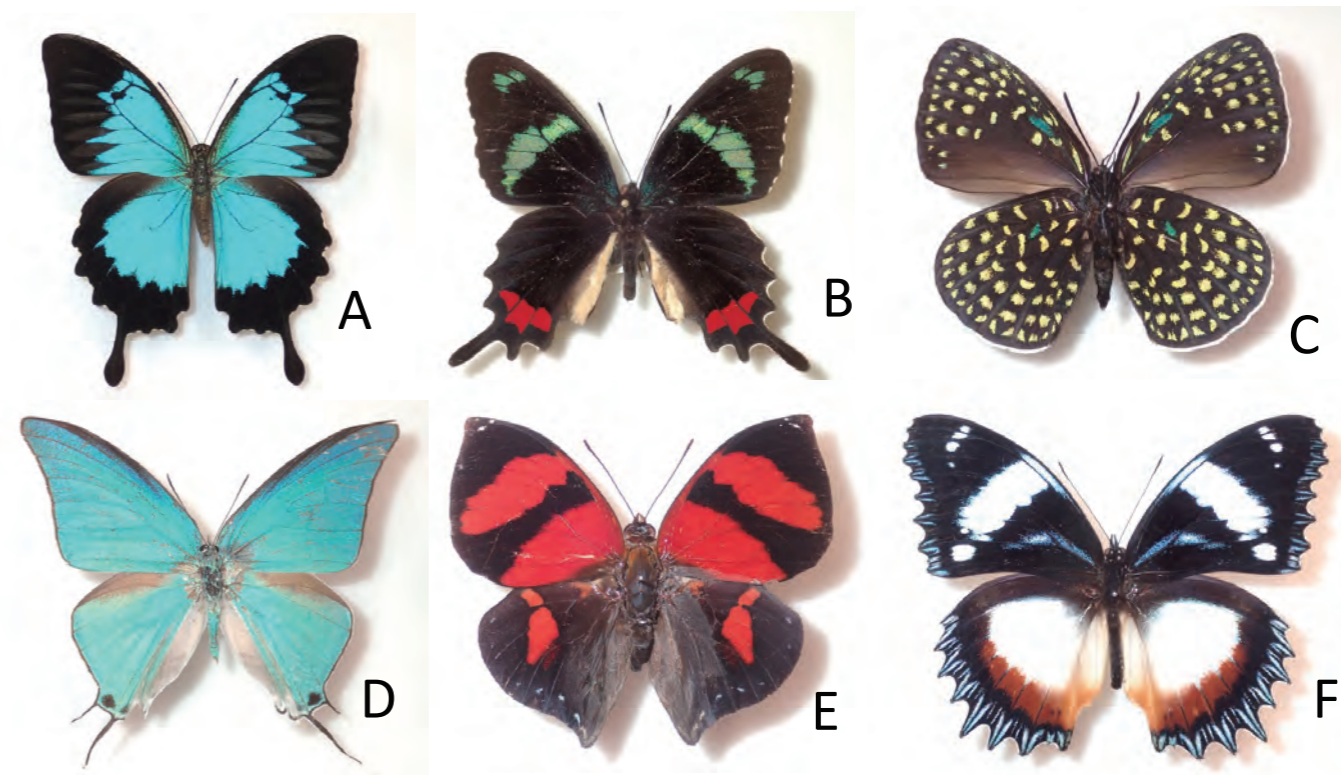


写真3 A: オオルリアゲハ, B: キューバジャコウアゲハ, C: デボラマルバネカラスジミ, D: オオルリフタオシジミ, E: マエモンベニキノハ, F: ハガタムラサキ